人間の裸に関する
Quranの資料

<第1章>

S.1.6~7

人間の正しい道とはアッラーが恵み給うた者の歩む道である。喜びに充ちあふれて歩む人間の道を正しい道と定義し給う。

S.2.10

迷いは迷いを呼ぶ。正しくない道を歩む人は激しい苦痛の中にいる。正しくもなければ不正でもないという道はない。喜びも苦もないという道もない。正しくない道は不正の道であり、即刻それは苦悩に充ちた道なのである。

S.2.26

アッラーのしるしは例えばブヨのような一見取るに足らぬものによって示されることもある。取るに足らないようなもの、極めて日常的なもの、ほんのちょっとしたありふれたこと、その中に

アッラーのしるしがある。

<ゲ2巻>
<ゲ3巻>
<ゲ4巻>
<ゲ5巻>

S.4.125

ムハンマドに下された啓示はアブラハムに下された啓示と何のかわることはない。それはアダムに下された啓示そのものである。それに何の付加するものもなかったのである。人間が創造された時(アダムが生れた時)この人間に啓示が下された。その啓示をかたくまもること、イスラームの主張はそこにある。

<ゲ6巻>
<ゲ7巻>
<ゲ8巻>

S.6.140

アッラーを規定するな。アッラーは人間

の規定の対象にはならない。逆にアッラーが人間を規定し給うのではないか。≪自はアッラーをとらえられぬ。アッラーが自をとらえ給う≫。
人間は自分自身を好きなように作りできると考えているが、そうではないという。自分で思い通りになるのは筋肉ぐらいのものらしい。第一自分という考察からして曖昧なものである。これは偶然に形成され、それ自体積極的な価値があるものではない。

<第9巻>
<第10巻>
<第11巻>

S.10.44

アッラーが人間をそこなうということはあり得ない。人間を創造に支えているものがアッラーなのだから。そこに疑問をもち、迷うのは人間であり そのことに

よって人間は自らをそこなうのである。
基本的なアッラーの交之、それのみで
人間には充分なのである。

S. 10. 49 (= S.T. 188)

人間は人間自身に対して、何の益
をも害をもたらすことはない。
自分は人間に対して主体たり得な
いということ。自分は自分に対して主
人ではないということ。

<ガ12巻>

S. 12. 38. 40

アッラーの他に他神を設けないということ
これはむしろアッラーからの人間へのめぐ
みである。頼るべきものを何も造り
出す必要はないということ。ちゃんと与
えられているということ。アッラーの他に
神を立てるのはつみで、立てないのは善
であるというのではない。アッラーの他
に神をたてるということは端的に単純に
誤りであり、迷いに過ぎないという。

アッラーの sujet でない形の人間は存在しない。sujet として人間は生れてきたのだから。

[この形の考えの基にあるのは、生きてあるということへの強烈な肯定である。つまり、人間が求めもせず立ってすでに与えられている、神と人間とを別々に切離して、しかるのち信仰によって結びつけるという形なものではない、本来神に与えられていない形な人間はない etc. は知性、ないし理性が作用する以前に、つまりともかくも生きているということの中に絶対的肯定を置いて初めてでてくる考えである。しかし、知性(理性)が作用している形な生があるのだろうか(上記の論法によれば)? cogito ergo sum の sum cogitans なるものとして人間をとらえれば人間は bébé のはから cogitans な sum であらねばなるまい。人間の生きざまの展開のうちに表われてくるのが理性であろう。

<はじめ>

コーランを通じて、アッラーに他者を配してはならぬ。その他者なるものは単に人間がつけた名前にすぎないのだから、次第の先祖イブラヒームの教えに従ってアーラーを礼拝せよ という趣旨の言葉が散りばめられている。これは、ともあれ アラブ人にとりイブラヒームは人間一般にとってはアダムに相当するが、そのアダムの教えに従いアッラーを拝せよということと同じで、すでによえられている神の他になにものを神としてはならぬということなのである。人間が存在しているということにはすでに確固たる基盤が与えられているということに他ならない。　どちら状態（人間の）が最初につくられた状態であるのか？

マホメットは自分に下った啓示（人間観、神観、世界観）は何も目新しいものとは考えず、すでにイエスに、モーセに、イブラヒームに下ったいたもつ、つ

まりはアダムに，即ち人間そのものに
すでに下っていた啓示（人間観 etc.）
と考えていたのと思われる。
具体的に何をどうせよといってはいず
神と人間との関係に新しい発見を
したとも言ってはいない。

<ゲ14巻>
<ゲ15巻>
<ゲ16巻>
<ゲ17巻>
<ゲ18巻>
<ゲ19巻>
<ゲ20巻>
<ゲ21巻>
<ゲ22巻>
<ゲ23巻>
<ゲ24巻>
<ゲ25巻>
<ゲ26巻>
<ゲ27巻>
<ゲ28巻>

<ゆ29巻>
<ゆ30巻>

<<了>>